

とちぎユースサポーターズネットワーク共同代表

とちぎ

寸言



私はニートやひきこもりなど

若年無業者の社会参加と自立支援、地域課題の解決を目指す若者育成、大学生の地域活動、「限界集落」と言われる高齢者の多い地域の支援、中心市街地の活性化など、若者の力を高め、若者が必要としている現場につながる「地域づくり」を仕事にして

1982年、宇都宮生まれ。宇都宮大学国際学部卒業後、宇都宮市民活動サポートセンターに勤務。NPO、ボランティアの支援に携わる。2010年4月、宇都宮市から、若者を包括的に支援するNPO法人「とちぎユースサポーターズネットワーク」共同代表。

に「疑惑が生まれ、「価値観の揺らぎ」が起きた。東日本大震災を機に「価値観の転換」が必要だと見聞きするが、10年以上前にすでに「価値観の転換」を迫られていたのがこの世代である。

実感として「安心」への「疑い」や「不信感」は、人間を根本から不安にさせる。その不安から生まれる「プラス面」は、今までの常識を疑い、生きていく上で本質的に何が必要で大切かという問い直しが起きることである。

岩井 俊宗

「氷河期世代」息づく使命感

「ソーシャルリーダー」は、長く続く社会不

いる。

この仕事をしていると、社会を担っていると自負している同世代と出会う。私は尊敬の念を込めて彼らを「ソーシャルリーダー」と呼んでいる。

彼らの特徴は①社会や現状に対して危機感を持ち、常に現状打破することを考えていること
②社会を担う自覚と使命感を持ち自立した行動をとること③

を認め、人を大切にしていること⑥人を育てる視点を持っていること⑦28〜38歳であること、などが挙げられる。

特徴の最後に挙げた年代は、バブル崩壊後に社会に出た「就職氷河期世代」だ。単に就職が厳しかっただけでなく、銀行の倒産や企業のリストラなど、「いい企業に就けば安心」という上の世代からの教え(常識)

安から、「生きる」ことを問い直し、他者への依存や他力本願ではなく、他者とのつながりを生かして社会的な役割を全うすることを選択した。またごく少数であるものの、彼らの持つつながりと行動力、精神は、未来への社会の財産であり、学ばべきことが多い。私も切磋琢磨しながら、社会的役割を果たしたい。